

裏切りの刻印を刻みし 超越者の設定資料

裏切りの鎮魂歌

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

どうも、初めましての方は初めまして

そうでない方はお久しぶりです

私、裏切りの鎮魂歌と申します

最近、R18の作品ばかり書いていますが、久々にR18じゃない作品を書きます
内容を簡単に言いますと、私が実際に作ったオーヴァードキャラを紹介するだけの話
です

話の流れは最初にプロローグ的な物を書いて、次にそのキャラが過ごす日常と非日常
を書いていきます

順番はプロローグ↓日常↓非日常↓キャラ紹介の順番で書いていきたいと思います
それでは、ぜひ読んでいってください！

目次

闇影刹那

目覚めの刻

歩みし日常

闇の王

闇影刹那の設定

獅子神錬士

目覚める獅子

獅子の帰還

獅子神錬士の設定

1

7

12

26

36

45

49

闇影刹那

目覚めの刻

場所はある研究所

そこにいたのは、白衣を着た研究者と人間とは思えない雰囲気を持っている黒服の男達と白い服を着こなしていてモノクルを付けている男がいた

そんな連中が見ているのは一人の少年だった

「あれが、例のオーヴァードか」

監視カメラで映し出された映像越しに少年を見ていたモノクルを付けている男が隣にいる白衣を着たFHエージェントに問う

その男の名はアルフレッド・J・コードウエル

FHの幹部エージェントである

彼はFHの研究成果を見に来たのだ

コードウエルに話しかけられた白衣を着たFHエージェントは目の前の少年について説明する

「はい、あれが我々が作り上げたオーヴァードです」

「成果はどうなっている?」

「ええ、5歳の頃に白兵と射撃の訓練をさせ、敵地の潜入の訓練やハッキングなどをさせた結果! 素晴らしい結果が出ました!」

興奮を隠せないのかFHエージェントは、まくし立てるように喋る

「白兵戦では自身より体格の大きい大人を圧倒し! 射撃では10m先の中心に当て! 一度も敵に見つからず目標の物を盗み! ハッキングも的確に行う事ができました! 今までのエージェント達を超える逸材ですよ!」

喋り終えることで段々興奮が収まって落ち着いたFHエージェントは言葉を続ける

「……ただ」

「ただ?」

「あれが持っているシンドロームが見たことも無い種類なんです」

「ほう?」

「見た目はエンジェルハイロウの闇に似ているのですがそれとは違いますし、かといってオルクスかという違います…これを見てください」

FHエージェントは少年が戦闘訓練を受けている映像を流す

映像に映し出されたのは少年が手のひらからレネゲイドを収束して放つ姿だった

「これは……影か」

「はい、しかもそれだけじゃありません」

そう言って、FHエージェントは他の映像を見せる

「この映像には訓練の相手のエージェントの能力を模倣して、模倣した相手よりも強力な状態にしています」

「影、模倣、自己進化か」

「はい、我々が知っている今までのシンドロームを遥かに凌駕しています。あれの相手をしたエージェントはレネゲイドを食われる感触がしたつと言ってます」

「レネゲイドを食われた……だったら、あれしかないな」

「知っているのですか!? コードウエル博士!」

「我々が知っているシンドロームはエンジェルハイロウ、バロール、ブラックドッグ、ブラムIIストーカー、キュマイラ、エグザイル、ハヌマーン、モルフエウス、ノイマン、オルクス、サラマンダー、ソラリスの12種類だが……実は13個目のシンドロームが存在していたのだ」

「そ、それは! あ滅ぼされたシンドローム『ウロボロス』ですか!」

「そうだ、あの影と能力模倣、自己進化はウロボロスの特徴と一致している。これは素晴らしい結果だ!!」

コードウエルは小さく笑みを作り研究成果を喜ぶ

「更に研究を続け、ウロボロスのレネゲイドウイルスを完成させ世界中に拡散しろ」

「はい！」

「これより、ウロボロス計画始動だ」

この日から、ウロボロスを世界中にばら撒き、ウロボロスのシンδροームを持つオーヴァードを増やす『ウロボロス計画』が行われるのだった

あれから、5年の時が経った

コードウエルのウロボロス計画が成功し、世界中にウロボロスのレネゲイドウイルスを拡散したと同時刻、コードウエルは5年前出会った少年に会っていた

「最後にあったのは5年ぶりか」

「はい。お久しぶりです博士」

「とうとう君も我々FHのチルドレンとして活動する時が来た：そこで、君に名前を与えよう。君の名前は闇影刹那だ。そして、これはFHの研究者達に作らせた君のプレゼントだ」

コードウエルから名前を貰った闇影刹那は刀を渡される

刹那が刀を抜くと緋色の刀身が輝いていた

「その刀の名は『魔獄』我々が餓獣刃を大幅に改良し大量の賢者の石を使って加工した

刀だ」

その時！ 爆発音が鳴り、FHの研究所が大きく揺れた

「コードウエル博士！ 大変です！ UGNが襲撃してきました！」

「すぐに迎撃しろ。お前も行くんだ刹那」

「分かりました」

指示に従い、刹那はUGNを迎撃しに向かった

現場に着くとFHとUGNが激しい戦闘を繰り広げていた

(…リーダーを倒して戦況を変えよう)

刹那はリーダー格のUGNエージェントを探す

すると、銃を撃っている青い髪のエージェントを見つける

その男から感じる威圧感からリーダー格のUGNエージェントだと刹那は気づいた

(…見つけた)

刹那は背後に忍び寄り、魔獄を抜いて逆手に持ちリーダー格のUGNエージェントに

心臓部分に突き刺す

(やったか…)

手応えを感じた刹那はそのまま魔獄を抜こうとしたが、抜けなかった

(ぬ、抜けない!? まさか、筋肉を操作して身体を硬直して魔獄を抜けないようにして

るのか!!)

後方に跳んで距離をとった刹那に他のUGNエージェントが銃を向ける

「待て!」

しかし、リーダー格のUGNエージェントが味方のUGNエージェント達に手を向けて制止する

背中に刺さっている魔獄を抜き取る

すると、心臓部分から流れていた血が勝手に止まっていき何も無かったように傷が修復する

(ぐっ! こいつ…遠くから見ていたから分かるが、かなり強い!)

刹那は構えを取り、衝撃に耐えようとする

だが、リーダー格の男は刹那に攻撃をせず、刹那の身体を抱き上げた

「もう大丈夫だ。もう戦わなくていい」

突然身体を抱き上げられ、抵抗をしようとした刹那だったが自身の包み込む温かさに抵抗をやめる

(なんだ…この全身を包み込み、身体の中を温かくしてくれるのはなんだ? だが

…悪くないな)

リーダー格の男に運ばれながら、刹那は深い眠りにつくのだった

歩みし日常

「……懐かしい夢を見たな」

かつて研究所にいた夢を見た刹那はベッドから身体を起こし、服を着替える

(あれから7年か…俺がUGNに保護され、今に至るのは)

刹那がUGNに保護された後、自身を背負ったUGNエージェント『鮫島隼人』が刹那を引き取り育てるのである

FHの研究所から出たことが無い刹那にとって外の世界は驚きの数々だった

刹那があればなんだこれはなんだと言うたびに隼人は嫌な顔をせず一つ一つ答えていく

それから隼人や他のUGNメンバーと関わっていくうちに刹那の表情が増えた

だが、元々UGNを滅ぼすために作られた存在とウロボロスという今までに見たことが無いシンドロームを持っていたため、UGNに監視をされることもあった

しかし、刹那自身が無害なのと自分達から仕掛けなければ問題は無いと判断したUGN上層部は監視を下げ、現状を見守るのだった

(さて、学校に行くか)

朝食を食べ終え、制服に着替えた刹那は自分が通っている高校に行くのだった

高校に着いた刹那は授業を受ける

FHにいたころは春日恭二に、UGNに保護されたときは隼人に勉強を教えられていたため授業には難なくついていけて、学年1位の成績を取っていた

「刹那はまた1位か！」

「頭いい上に運動神経も抜群なんて！ 天は俺達を見捨てたのか!!」

自分達のクラスメイトの驚く声を背中に受けながら、刹那はある人物の元に向かった
刹那はその人物がいる教室の扉を開け、3段に重なっている重箱に入ってるおかずを食べているドレッドヘアーの男子生徒に近づく

「あ、刹那」

「よう、錬士」

その者の名は獅子神錬士^{ししがみれオ}。刹那の友人のオーヴァードだ

錬士は箸を重箱の上に置き、刹那に弁当箱を渡す

「いつも作ってくれてありがとな」

刹那の昼食は獅子神錬士が作っていた

錬士の料理の腕は金を払っても問題ないレベルの腕前だ

刹那とは幼い頃の友人で、鮫島隼人と一緒に育てられた

「僕も弁当作るの好きだし別にいいよー」

そう言うのと錬士は再び弁当を食べ始める

教室を後にした刹那は錬士が作った弁当を食べに行くのだった

食べ終わった弁当を錬士に返して刹那は放課後になり学校を出る

出るときに感じる部活動をしている生徒たちのはつきりとそして、大きな声が聞こえる

声を聞きながら刹那は帰路を歩き、自身が住んでいる家に着いた

「ただいま」

自分だけが住んでいる家にただいまと言いつつ、刹那は自身の家にあるソファアームに鞆を置き、日課である筋トレをする

筋トレでかいた汗をシャワーで流した後は学校から渡された宿題をこなし、あらかじめ影を操って作った夕食を食べる

FHの研究所にいたころは模倣や自己進化の能力は上手くできていたが、影を操るのはまだまだなため精密動作を上げるために影を操って料理をしていた

最初はおにぎりしか作れなかったが、最近ではハンバーグやオムライスなどの料理が

できるようになった

(今日も上手く操れたな。後は実践で鍛えるのみだ)

夕食を食べ終えた刹那は床に隠してある銃を取り出し、影に銃を持たせて数メートル離れた距離で銃口を自身に向ける

そして、影を操り銃の引き金を引く

発砲音と共に弾丸が刹那に向かって飛んでいく

刹那は自身に向かってくる弾丸を別の影を操り、弾丸を掴み取る

(よし、弾丸を掴むこともできた)

影の精密操作性が上がったのを確認した刹那は銃や弾丸を片付ける

幸い、刹那の家は防音防振が備わっているため発砲音は近隣住民に聞こえる音は無かった

ソファーに座った刹那は身体を楽にしてくつろぐ

刹那の家にはソファーとテレビやトイレといった家で暮らすのに最低限の物しか置いておらず、漫画やパソコンとかは置いてなかった

ほとんど何も無い部屋で刹那がソファーに座っていると、リモコンを押してないのにテレビが点いて一人の男が画面に映る

「闇の王。仕事です」

それは、UGN日本支部支部長『霧谷雄吾』だった

闇の王

「闇の王。仕事です」

「霧谷か、仕事の内容は？」

「FHの殲滅です。場所はここより数キロ先の港にある倉庫です。彼らはそこでジャームの取引をしています。闇の王、貴方にはそれらを阻止してください」

霧谷雄吾はFHがいる倉庫の地図を表示させる

「了解。すぐに向かう」

「それでは、お願ひします」

霧谷がそう言うのとテレビの電源が自動で消える

刹那は立ち上がって、仕事の準備をする

仕事着の灰色のシャツ、黒色のジーンズ、黒色のトレンチコートに着替えて外に出る外に出た刹那は自身の家を中心に周囲にワーディングを張り、黒色の空間の裂け目を出現させる

すると、空間の裂け目からバイクが現れた

この空間の裂け目の名はハザマ。刹那がバロールの空間能力を応用して作り出した

イージーエフェクトだ。このドラえもんの四次元ポケットのような空間の中に刹那は魔獄や自身のバイクを収納している

バイクに乗った刹那はハンドルを握り、エンジンを入れる

獣の咆哮のようなエンジン音が鳴るが、ワーディングを張っているため周囲の家にはエンジン音は聞こえなかった

バイクに積んであるカーナビを使って、刹那はFHがいる倉庫に向かった

……さて、なぜ刹那がUGNイリーガルとしてUGNの依頼を引き受けているのかを説明しよう

FHから助けられてUGNに保護された刹那は隼人に助けられた恩を返すためUGNに入ろうとした

しかし、どこに所属するかでUGNの上層部で大きく揉めた

刹那に恐怖して消そうとする物、利用して自分達の道具にする者がいたのだ

そんな奴らのいる支部に刹那を所属させてたまるかと隼人は刹那を自身の支部所属のイリーガルにしたのだ

しばらくして、刹那は霧谷が言っていたFHが取引を行っている港から数メートル離

れた距離に着いた

(あそこが霧谷が言っていた港だな。さて、仕事を始めるか)

バイクをハザマの中に収納し、ハザマから魔獄を取り出した刹那は仕事を開始する
FHエージェント達は自身のセルリーダーを警護するために倉庫の外でアサルトラ
イフルを持って立っていた

空気がピリピリと肌を切るように鋭い雰囲気^{スベツク}が彼らを包んでいた

「……なあ」

「なんだ？」

その空気の中口を開くFHエージェントがいた

「俺らのセルリーダーが取引をしているジャームつていつたいなんだ？」

「確か、キュマイラとハヌマーンのクロスブリードで創られたジャームだ」

「おお！ いったいどういう能力なんだ？」

「なんでもキュマイラのパワーを保持しつつ、ハヌマーン並みの高速移動が可能で叫
び声を上げると衝撃波を発射するそうだ。パワーは鉄をも切り裂き、衝撃波はビルの壁
を破壊するそうだ」

「おお!! そりゃすごいな!」

キュマイラハヌマーンのクロスブリードジャームの性能にFHエージェントは驚く

更にそこへ別のFHエージェントが話しに加わる

「だが、その送られてきたジャームは一体だけだろう？ 一体だけでUGNに対抗できるとは？」

「それは問題ない。そのジャームを我がセルに搬送して、そのジャームの細胞を使って大量生産する予定だ」

「話はそこまでししろ。いつUGNの者が来るかもしれないんだぞ」

話をしているFHエージェントを近くにいた隊長格のFHエージェントが咎める

「す、すみません隊長」

「そういえば、奴等の勢いが強いですよ。最近俺達のセルに苦戦していたのに」

「そうだな。最初に俺達の幹部が死んで、幹部殺した相手探そうとして50人位の仲間を逆に殺されたり、拳句の果てに自分達のセルも爆破されたり」

「それで今、海外のFHセルからジャームを輸送して戦力を補充しようとしてるんだよな」

FHエージェント達はこれまで自分達の起こった出来事を思い出し、戦慄する

「だが、UGNの連中が我々をほぼ壊滅状態になるまで追い詰められたんだ？」

「他の支部から寄せられたUGNのエージェントだったら我々のセルで気づくはずだしな」

「……おそらく、あいつだ」

「『あいつ』？ 隊長知ってるんですか？」

「…ああ、知ってるさ。そいつは、俺達FHの研究で作り出されたオーヴァードだ。当時エージェントの俺は研究員の護衛として研究所にいた」

隊長と呼ばれたFHエージェントは自身の部下達に説明する

「十年前、FHはUGNに対抗するためにオーヴァードを作ろうとしたんだ」

「それって、ウロボロス計画ですか？」

「そうだ。作り出したオーヴァードは滅ぼされたといわれるウロボロスというシンδροームを持って生まれてきた。そこからウロボロス計画が始まったんだ」

「それで、そのオーヴァードが我々のセルを襲っているのはどういうことですか？」

「UGNが襲撃してきて我々が作り出したオーヴァードを奪っていったんだ。俺はコードウェル様と研究員を守りながら何とか逃げた。その後、そのオーヴァードは名前を与えられ、UGNイリーガルとして活動しているらしい」

「そうだったんですか……ん？」

「どうした？」

「正面に誰か来ます！」

「なに!!」

FHエージェント達は正面の方向にアサルトライフルを向ける
自分達の目の前には黒色のトレンチコートを着ている男がいた

FHエージェントの隊長は自身の眼に映っている男の正体に気づいた

※これ以降、FHエージェント達をFHエージェントA、FHエージェントBという
風に書きます。隊長格のFHエージェントはFHエージェント隊長と書きます

「あいつだ！ 我々のセルを爆破したUGNイリーガルだ！ 撃て!!」

そういうと同時にFHエージェント達は一斉に引き金を引いた

引き金を引いた瞬間、銃弾の雨が刹那に向かう

自身に迫り来る銃弾に対し、刹那は魔獄を振るい弾丸を斬りながら距離を詰める

「なっ!?!」

弾丸を斬りおとしながら近づいてくる刹那にFHエージェント達は驚く

距離を詰めた刹那は魔獄を鞘に収め、居合いの構えを取り、近くにいたFHエージェントAに抜刀する

魔獄に斬られたFHエージェントAの身体が斜めにずれ落ちる

斬られたFHエージェントAはアサルトライフルを撃ちながら息絶える

「くっ!」

刹那は瞬時にFHエージェントBに斬りかかる

魔獄でアサルトライフルとFHエージェントBの両手を切断する

「がっ!!」

両手を切断された箇所から血が大量に流れる

FHエージェントCは弾薬が切れたアサルトライフルを捨てサブマシンガンに持ち替えて発砲する

FHエージェントBの腹部に魔獄を深々と突き刺した刹那はFHエージェントBを盾代わりにしてFHエージェントCに向かっていく

サブマシンガンの弾丸が盾代わりになっているFHエージェントBに命中し、背中が血の色に染まっていく

刹那はFHエージェントBの身体をFHエージェントCに向かって蹴り飛ばし、FHエージェントCは体制を崩す

その隙を逃すことなく、刹那はFHエージェントB、Cを斜めに斬った後、その勢いを利用してFHエージェントBとCの首を斬る

斬られた首が地面に落ちると同時にFHエージェント隊長はアサルトライフルで刹那に狙いをつける

しかし、刹那は一瞬で距離を詰めアサルトライフルを切断し、FHエージェント隊長の足を斬る

足を斬られたF Hエージェント隊長は地面に倒れ、刹那の魔獄の赤い刃によつて首を斬り飛ばされた

魔獄を振つて、刀身に付いているF Hエージェント達の返り血を払った刹那は影を操り、倉庫の扉を掴んで強引に開ける

派手な轟音を鳴らしながら開かれた倉庫の中には海外から来たセルリーダーと刹那が追い詰めたセルリーダーと多数のF Hエージェント達がいた

「や、闇の王だ！ 殺せえ!!」

恐怖の表情で命令するセルリーダーの言葉を引き金に倉庫内にいたF Hエージェント達が刹那に銃を撃つてくる

銃の発砲音と葉莖の落ちる音が倉庫内に響く

それはまさに、一種の音楽のようだ

銃弾の雨が刹那に襲い掛かる

しかし、刹那は自身に迫り来る弾丸を避けようとしなかった

刹那の身体に銃弾が着弾する

だが、着弾された箇所から血は流れなかった

なぜなら、刹那の皮膚に銃弾が着弾した部分が黒く変色し、銃弾から刹那を守っていたのだ

これは、刹那の防御技『常夜の鎧』である

この技は刹那に対するありとあらゆる衝撃に対し一瞬で硬化するレネゲイドが自動的に刹那の身を守っているのだ

衝撃を受けた箇所から刹那の皮膚が黒く変色する

例えば、剣で斬られようが、銃弾や光線を受けようが、戦車の主砲の砲撃を直撃しても刹那には傷一つ入らないのだ

まさしく、常夜の鎧は刹那の最強の盾だ

FHエージェント達が撃ってきた銃弾を受け止めた刹那は自身の足元の影を生き物のように操り、FHエージェント達を攻撃する

刹那が操った影はFHエージェント達を串刺しにしたり、斬ったり等をして倒していく

セルリーダーを除いたFHエージェント達を全て倒した刹那はセルリーダーに向かって走る

「うわあああ!!」

「ひい!!」

自分達の部下を殺された2人のセルリーダーは刹那に向かって銃を撃つも刹那に銃

弾を弾かれる

自分の近くにいた海外から来たセルリーダーに刹那は魔獄を斜めに振り下ろす
海外から来たセルリーダーの身体が斜めにずれ落ちる

振り下ろした勢いを利用して刹那は自身が追い詰めたセルリーダーを斬りかかる

刹那に追い詰められたセルリーダーは取引に使っていたジャームを閉じ込めていた
鋼鉄製の箱のリモコンに手をかける

しかし、セルリーダーがリモコンを握ったときに、刹那に心臓部を深く突き刺される
だが、そこはFHエージェントを束ねるセルリーダー！ 心臓部を刺されながらも意
地でリモコンのボタンを押しして息絶えた

ジャームを閉じ込めていた檻が開き、ジャームの動きを封じていた枷が外れる
(これが新種のジャームか！)

※これからこの話に出てくるジャームの名前を新種のジャームに変更します

新種のジャームは目の前にいる刹那を敵と認識して咆哮を上げる

咆哮から発せられる衝撃波に刹那は倉庫の外へ吹き飛ばされる

コンテナまで吹き飛ばされた刹那は背中に強い衝撃を感じるも目の前のジャームを
見る

新種のジャームはハヌマーン特有の高速スピードで刹那に距離を詰めて襲い掛かる鉄も切り裂く巨大な爪が刹那を襲う！

レネゲイドを身体能力を強化したためジャームの股をスライディングで抜けて避ける

新種のジャームが振った巨大な爪はコンテナを切り裂く

(霧谷から送られたデータの通りだな キュマイラの欠点であるスピードの低さをハヌマーンでカバーしている)

「ガアツ!!」

自身に襲い掛かる爪を受け流して距離をとると新種のジャームは口から衝撃波を放射してくる

衝撃波を刹那がかわずと後ろにあったコンテナがまるで紙を握りつぶしたみたいに凹んだ

(遠距離で衝撃波を発射し、近距離で爪で攻撃。そこらの欲望の赴くままに暴れるジャームより賢いな……だがその分、動きが分かりやすいな)

冷静に新種のジャームの戦闘パターンを分析した刹那は居合いの構えを行い、新種のジャームに向かって走る

刹那は新種のジャームの腕を斬る

腕を切断されて苦痛の表情を作った新種のジャームは刹那を強く睨みながら、切断された自身の腕を再生する

（再生速度も速いな…ならば、再生が追いつかないほどのダメージを与えてやる！）
新種のジャームを上回る速度で新種のジャームを翻弄し、新種のジャームの身体を斬り続ける

自身の身体を斬り続けられ、徐々に再生速度がダメージに追いつかなくなり、新種のジャームは怒り、刹那に向かって爪を振って倉庫の上まで跳んだ

倉庫の上に着いた新種のジャームは今まで斬り続けられた怒りを発散するかのよう
に衝撃波を連続で発射してくる

まるで雨のように撃ってくる衝撃波を刹那は避けながら、コンテナを跳んでいき新種のジャームの両腕を切断した後、首を斬りおとす

首を斬りおとされた新種のジャームは倉庫から落ちていきコンクリートの地面に倒れる

しかし、身体はまだ再生しようとしているのかピクピクと痙攣していた

刹那は倉庫から飛び降りて新種のジャームの心臓を深く突き刺す

すると、痙攣していた新種のジャームの身体が止まっていく

完全に痙攣が止まったと確認した刹那は念のために自身の回りにある影を手に集め

て圧縮した影を斬りおとした新種のジャームの首に放つ

放たれた影は衝撃音を出しながら新種のジャームの首を消滅させた

刹那は魔獄の刀身に付いた新種のジャームの血を魔獄を振って落とした後、携帯を使つて霧谷と隼人に報告する

報告して、しばらく待機していると霧谷と隼人の支部に所属しているUGNエージェント達が来た

「闇の王、ご苦労様です」

「なあに、いつもの事だ」

「……しかし、結構派手にやったものですね」

霧谷は新種のジャームとFHエージェント達の戦闘で傷ついた港を見る

FHエージェント達と新種のジャームの死体、地面に落ちている大量の薬莖、極め付けには新種のジャームが放った衝撃波でコンクリートがまるで隕石が落ちたみたいに見える小さなクレーターができていた

「見ての通りだが、あの新種のジャームかなり手強い。動きは分かりやすいが、その分厄介だった。あの新種のジャームを作ったFHセルはどうなってる？」

「海外にあるUGN支部がFHセルを制圧。新種のジャームのデータを破壊したそうです」

「そうか」

「これは、今回の仕事の報酬です」

霧谷は刹那に封筒を渡す

封筒の中身は見ても分かるように分厚かった

霧谷から封筒を受け取った刹那はハザマからバイクを出す

「それでは、次もお願ひしますね」

「任せろ」

刹那はバイクに乗って倉庫を後にするのだった

家に着いた刹那はバイクをハザマに収納した後、家に入って仕事着を脱いでパジャマに着替えて寝た

そして、翌日。刹那が朝食を食べているときにニュースが流れた

「皆さんお早うございませう。昨晚倉庫で大規模な事故が起きました。現場は凄惨な状況で倉庫の関係者は立ち入り禁止になっており――」

朝食を食べ終えた刹那はテレビの電源を切って制服に着替え学校へと向かった

今日も刹那は日常を歩みながら日常を守っていくのだった

闇影刹那の設定

名前 闇影刹那（やみかげせつな）

性別 男

容姿 かなり整った顔立ちで、かなりのイケメン

髪の色 灰色

瞳の色 青色だが、自身のレネゲイドが高まると赤色に変色する

年齢 17

一人称 俺

服装 黒色のトレンチコート、灰色のシャツ、黒色のジーンズ

ブリード ピュア

シンドローム ウロボロス

設定

FHがUGNを倒すために作った世界で初めてのウロボロスのシンドロームを持って生まれたオーヴァード

FHによって白兵戦、射撃、ハッキング技術、レネゲイドのコントロールの仕方を教わり、研究所という狭い世界と冷たい檻の中で10年間過ごす

10歳になる時に自身専用の武器『魔獄』を貰うと同時にUGNが任務でFHの研究所に襲撃する

この時、後に刹那の父親のような存在になる鮫島隼人が刹那を保護し、刹那を育てる長い間の研究所生活のせいで感情が無い状態だったが、隼人や他の人達のおかげで様々な感情が芽生えてくる

しかし、恋愛感情は中々分かることができず、女子に告白をされても断っている

FHエージェント達に鍛えられたおかげで身体能力や頭脳がずば抜けており、100mを10秒で走り、学年テストでは連続1位をとっている

容姿端麗、運動抜群、頭脳明晰の三拍子が揃い、早くも刹那は学校の人気者になった
 日常では学生として過ごし、裏ではUGNイリーガルとしてジャームを倒している
 刹那は日常を過ごす中で手に入れた物を守るため、今日もジャームを討伐する！

覚醒と衝動

覚醒：素体 理由 FHの実験で生まれた

衝動：殺戮 理由 UGNを滅ぼすために作られたため

コンボデータ

コンボ1 魔神の爪痕（まじんのつめあと）

効果 魔獄にレネゲイドを注ぎ込み力を高めて攻撃する技

コンボ2 魔剣乱舞（まけんらんぶ）

効果 連続で相手を斬り続ける技

コンボ3 魔神の斬撃波（まじんのざんげきは）

効果 一直線に斬撃を飛ばす技

コンボ4 漆黒の螺旋撃（しっこくのらせんげき）

効果 相手に突きを出す時に手首を捻り込んで魔獄を回転させ貫通力と威力を強化

した突き技

コンボ5 黒き三日月（くろきみかづき）

効果 魔獄の先端部分（剣先の部分）から、影が魔獄を覆って巨大な鎌に変形して広

範囲の斬撃を放つ技

コンボ6 常夜の鎧（とこよのよろい）

効果 あらゆる衝撃に対して一瞬で硬化するレネゲイドが刹那の身体を守る。強度

は戦車の主砲の砲撃を受けても耐える。使用してる時は刹那の皮膚が黒くなる

コンボ6 シャドウ・キマイラ

効果 自分の影から、いろんな動物を出す。ライオンや像はもちろん、龍や不死鳥などの幻獣、人間もOK。三体まで同時にさせる。この動物は相手の影から出す事も可能

コンボ7 亡者の手

効果 相手の影から手が出て、相手を拘束する

コンボ8 シャドウ・ドーム

効果 自分の周りを影が覆い、攻撃から身を守る。相手を取り入れて、強制的にタイマンに持ち込む事も可能

コンボ9 シャドウ・バスター

効果 身の回りにある影を、手に集めて圧縮し、相手に放つ。当たった瞬間に圧縮していた影が爆発し、相手を飲み込む。

刹那がウロボロスの能力に目覚めて出来たオリジナルのイージーエフェクト

ハザマ

説明 八雲紫のスキマと似ているが見た目は黒一色で目玉模様はない。中には魔獄が収納されており、刹那が戦う際に取り出す

影創造（シャドークリエイト）

効果 影をありとあらゆる武器や乗り物に生成して作り上げる

影創造で作られる武器の種類と名前と効果

名前：血濡れの影槍 種類：槍 効果 魔獄よりリーチが長い

名前：餓狼の双影牙 種類：双剣 効果 魔獄よりリーチは短いスピードが高い

名前：残影より出でし死神の鎌 種類：大鎌 効果 血濡れの影槍とリーチは同じだが、広範囲の敵に攻撃できる

名前：闇黒神の鉄槌 種類：大槌 効果 魔獄よりやや長く一撃一撃が重い。しかし、一撃が重い分振る速度が遅い

名前：影界第六天魔王の象徴 種類：重火器 効果 影創造で作られる遠距離武器。ガトリングガンとミサイルランチャーの二種類に作ることが出来、弾丸はレネゲイドで作られているため無限に撃つことが出来る

名前：闇世の怨念塊 種類：手甲 効果 魔獄よりもリーチがとても短いスピードとパワーがある

なお、影創造で作った武器でコンボ1〜4の技を使用するとき、技の描写が変わる

Dロイス

実験体（ロストナンバー）

闇の王（やみのおう） ※闇影刹那専用のDロイス

闇影刹那専用のDロイス『闇の王』の説明

FHの研究員が刹那を作り上げる際に与えた機能

ウロボロスのオーヴァードが使えるDロイス輪廻の獣（アルマ・レグナム）と似ているが、実際は違う

輪廻の獣の場合は白い仮面を付けた二足歩行の獣の様な異形になり

闇の王の場合は魔人を彷彿とさせる姿の異形に変身する

闇の王を使用した際、刹那のパワー、スピード、耐久力等の身体能力が数倍に上昇する

しかし、その強力な力の代償としてかなりのレネゲイドを消費する。一回使ったら1時間は使用できない

その間は常世の鎧も使用できず生身の状態になる

闇の王を使用した際になる異形の姿は具体的に言うくと、デビルメイクライ4の主人公ネロがデビルトリガーを使用した際に背後に出る青白く光る魔人の色が黒色

戦闘スタイルは相手の能力の一部を模倣と模倣した能力と自分自身を強化して戦う

白兵寄りの万能型

至近距離の敵には一瞬で距離を詰めて高速で抜刀し

遠距離の敵には影を操って攻撃を行い

味方への支援も影を操って守ったり、自身を囿にして敵を引き付けたりしている

なお、素の身体能力でも素手でジャームを殺せる実力を持っている

刹那専用の武器 魔獄（まごく）の説明

見た目 メタルギアライジングリベンジエスのサムが使っていたムラサマブレード

説明 FHが餓獣刃（がじゅうじん）を大幅に改良した刀で大量の賢者の石を加工して作られた武器

ジャームやオーヴァードにダメージを与えると斬った対象のレネゲイドを吸い取り、より切れ味が増す

レネゲイドを吸収した際、魔獄の刀身は赤く光る

魔獄が扱えるのは刹那だけであり、他の者が持つてしまったらレネゲイドを吸い取られる

このキャラを作ったときの感想を含めた雑談

私が闇影刹那を作ったのはですね、私がネット通販でダブルクロスの子プリメント『インフィニティコード』を買った当日に作りました

インフィニティコードに書かれてあるウロボロスのシンδροームを見た瞬間、私は興奮しました

『原初の』と書かれてあるエフェクトでウロボロス以外のシンδροームのエフェクトが使えたり

どんな判定も精神で振れるエフェクトがあったり

相手にダメージを1点でも与えると攻撃力やダイスの数が増やして自身を強化するなど

まるでラスボスのようなシンδροームです！

しかし、その分侵蝕率が上がるのが早くてすぐに100%になってしまいます

まあ、ほとんど私のダイス運が関係しているんですけどね

シーンインする時、いつも私が10面ダイスを振ると10の出目がたくさん出るんですよ

他の皆が振っても3や5とか最高で7の数字が出るのにもいつも私だけ10なんですよ！

そのおかげで、クライマックスフェイズに入る前に侵蝕率が100を超えます

なので、私はいつもロイスを満タンにしてバクトラックで安全に日常に帰れるようにしています

ちなみに、このキャラを作ったときの感想は最初はウロボロスピュアという事もあって、精神の数字がデカかったのでポイント振り分けるとき、肉体にガン振りして実験体をとって肉体にガン振りして白兵特化に作りましたね

なんか、ウロボロスは精神が主になっているんで、HPを上げるときは肉体にガン振りしないといけないんですよ

戦闘するときも原初のシリーズで攻撃エフェクトをとって、相手にダメージを与えたらダイスを増やす効果を持つエフェクトを習得しました

上記に書いたとおり、私はダイスを振るとき高い出目が出やすいためクリティカルが出やすいんです

ダブルクロスでのクリティカルは10の数字が出るとクリティカルなんですけど判定をを行うときに

『コンセントレイト』のエフェクトを使うとクリティカルの判定が広がります

コンセントレイトLv2で8以上がクリティカルで、Lv3になると7以上がクリティカルになります

そのおかげで戦闘のときは非常に役に立っています

けど、引き継いで使うとき、友人にストップがかけられましてね
なんでも強すぎるといふ理由だそうです

私は好きなキャラを使いたいから

「そこをなんとかできない？」

と聞いたら友人は私のこう言ったのです

「ならスーパーハードモードでもいいならしてもいいけど」

その言葉に私は刹那を使うのを止めました

使うのがダメって言われたのに不満はありましたが、逆に考えますとウロボロスのシン
ドROOM持ちは侵蝕率が早く上がるという短所を除いてすごく強いというのが分か
りました！

このロマンあふれるシンドROOM みなさんはどう思いますか？

獅子神錬士

目覚める獅子

「うつ、うつ……」

砂浜で8歳ぐらいの少年が身体を起こす

「……………」

目を覚ました少年が周りを見る

周りを見ると、生い茂っているジャングルと広大な海が広がっていた

そう、少年がいる所は無人数島である

「……………なんで……………ここにきたんだっけ……………」

少年が思い出すとすると黒色の煙が昇っていた

人がいるかもしれないと思い、少年は煙が昇っているほうに走った

だが、そこにあつたのは天井部分が壊れている飛行機の姿だった

「え？ ああ!!」

壊れている飛行機を見た少年は脳裏にある記憶が流れてくる

それは少年の家族が楽しい旅行を過ごそうと飛行機に乗っていた

楽しい旅行を過ごせることに少年は心を躍らせていた

しかし、楽しい旅行は少年を不幸の運命に誘う

「かあさん！ こわいよー！」

「鍊士レオ！ 大丈夫よ！ 私達がいるわ！」

「そうだ！ だから安心しろ！」

「とうさん！」

突如、飛行機にエンジントラブルが発生したのだ

鍊士と鍊士の家族と乗客はパイロットの指示に従って行動していたが、エンジンが爆発したのだ

その爆発で飛行機の天井部分が壊れ、鍊士は爆風と強風で身体がシートごと飛ばされた

飛ばされている途中でシートが壊れてしまい鍊士は海に墜落し、運よく砂浜に流れ着いたのだ

「そうだ！ とうさんとかあさん!!」

鍊士は自身の母と父を探すために飛行機に乗り込む

乗客の荷物を踏まないように歩きながらも鍊士は両親の席に着いた

「とうさん！ かあさん！」

鍊士は両親の身体を揺らす

しかし、両親の身体は冷たく、鍊士がどれだけ揺らしても目が覚めることは無かった
「とうさん……かあさん……うう……」

涙を流す鍊士

だが、鍊士は自身の父親の手に握られている紙に気づいた

(なんだろう?)

鍊士が紙を取り出すとそこには自身の父親の文字があつた

『鍊士へ、お前がこの手紙を見ているという事はもう俺達は死んでしまつていること
だろう。俺達が乗っている飛行機は無人島に到着したが、死人が多く生きているもの
も重傷を負つており、もうすぐ死ぬ。父さんと母さんももうすぐ死ぬだろう。鍊士には
これからつらい思いをして生きていく事になる。父さんの知り合いに鍊士を助けてく
れるよう頼んだ。それまで生きてくれ』

「とうさん……」

涙を拭い、鍊士は自身の父の知り合いが救助してくるまで生きる決意をし、飛行機を
後にした

あれから、無人島を歩き回つて夜になつたとき、鍊士の腹の虫が鳴つた

そう、飛行機を後にしてから鍊士はなにも食べてなかつたのだ

「……おなかすいた」

錬士が腹を押さえながら歩いているとヤシの木を見つけた

見上げるとヤシの木にココナッツがなっていた

(確か、本で中に果肉と果汁があるって書いてた!)

木を揺らす錬士だが、子供の力ではヤシの木は揺れなかった

(落ちて!落ちてっ!)

そう願う錬士だが、現実には厳しくヤシの木は揺れず、錬士の体力が無くなるのが早かった

「はあ……はあ……」

地面に倒れる錬士

そして、錬士の視界が揺らいでいた

(嫌だ!とうさんに生きろって言われたんだ!死にたくない!死にたくない!!)

足に力を入れて立ち上がった錬士はヤシの木を登ってココナッツを探ろうと考えた
元々運動はできたので木に登ることはできた

錬士はココナッツを掴んで引つ張ろうとするが中々取れなかった

なんとか手に力を入れてココナッツを引つ張る錬士

頑張った結果、ココナッツは取れた

だが、ココナッツを取った際に錬士の体勢が崩れてしまい地面に落ちてしまった

鈍い音と衝撃を錬士は背中から感じた

そのあまりにも痛さにこらえながら錬士はココナッツを開けようと手に入れた
割る

「うーん！」

手に力を入れ、卵を割るみたいにココナッツを開けることに成功した

「やったー！」

錬士はココナッツが割れたことに喜び、ココナッツの果肉と果汁を食

(おいしいー！)

あつという間にココナッツを平らげた錬士は感動し、再びヤシの木を登ってココナッツを取り、今度は落ちないようにココナッツを砂に落とす

しかし、錬士は気づかなかつた

ココナッツは繊維質の厚い殻に包まれているため子供の力で開けるのは到底無理なことなんだ

作者も家族旅行でグアムに行った時ココナッツを食べる時、店員が鉋を使わないと食べられなかつた

だが、鍊士はそんな事知る由も無く空腹を満たすためにココナッツを食べていた

——あれから7年の月日が経った

無人島に流れ着いた鍊士は今日の獲物を狩るためにジャングルを走っていた
獲物の対象は猪

鍊士は猪の足跡を見て猪がいるところを予測し、猪がいる方向に走る

森を駆け、背中に背負っている槍を構え、鍊士は猪と対峙する

猪は鼻息を荒げ、鍊士に向かって走る

まさに猪突猛进という言葉が当てはまる突進に鍊士は狙いを定めて猪の眉間に槍を
突き刺す

勢いよく突かれた槍に猪は悲鳴を上げたが、すぐに悲鳴が消え、息途絶える

「今日の食料確保！」

鍊士は猪を追う前に捕まえたウサギと先ほど狩った猪に血抜きをして自身の住処に
帰っていった

現在、鍊士が住んでいるところは自身が流れ着いた砂浜の近くにあった洞窟
洞窟内はかなり広く、暮らしていくには十分だった

さらに、飛行機から持ってきた生活用品や保存食のおかげで生きていけることができ

た

鍊士は捕つてきた猪とウサギの毛を筆り、皮を剥ぎ、一つの肉にする
そして、包丁を手に持ち適当な大きさに肉を切り、肉を焼き、食べる

(あれから何年経つたのだろう?)

肉を食べながら鍊士は思う

(あの日、飛行機から荷物を持つて、この洞窟に住んで、狩りの仕方は父さんから教
わっていたから生きてこれた)

当時の記憶を思い出し、鍊士は自身の手を見る

(なんで、あの時から何も無いところから物や包丁が出せるんだろう?)

そう、いかに保存食を有ろうが食べていけば無くなる

そこで鍊士は狩をする事になったのだが木を切るにも刃物が必要だ

しかし、飛行機内に刃物を持ち込むなんて早々出来ることではない

(あの時、僕が包丁が欲しいって思ったらいつの間にか包丁が僕の手握られていた。
飛行機内にも無かつたのに……)

鍊士はしばらく考えていたが

(まっ、いいか)

考えるのを止めた

(今ここで考えても分からないからいいや。これがなんなのかは分からないけどそのおかげで僕は生きていけるし)

難しく考えるのをやめ、鍊士は食べ終えた後、明かり代わりに使ってた焚き火の火を消した

(さて、明日の狩りの準備をして寝よう)

明日の狩りで使い道具の手入れや仕掛けを用意して寝た

(父さん…明日も生きるからな)

父との言葉を思い出し、鍊士は明日も生きていくのだった

翌日、鍊士は川に鎮めておいた仕掛けを持ち上げ、仕掛けの中に入っていた魚を焼いて食べていると船が近づいてきた

船から人が現れ、砂浜に降り立つ

(いったい誰だろう?)

船から出てきた青い髪をした男が鍊士に近づいてきた

「君が獅子神鍊士か？」

「そうだけど、あんたは？」

「俺は鮫島隼人。君のお父さんに頼まれて君を助けに来たんだ」

「っ！　じゃあ、あんたが父さんの言っていた」

「そうだ。長い間待たせてしまったがよく生きてくれていた」

錬士は鮫島隼人の救助で無人島から出ることが出来た

獅子の帰還

鮫島隼人に助けられた鍊士に待っていたのは本人にとつては驚きの毎日だった

まず、鍊士が救助された事がニュースで流れ、マスメディアが騒ぎ、鍊士がいた無人島にある飛行機の白骨死体と化した死体を遺族の元へ運び、葬式を済ませた後、鍊士の生活が変わっていった

身体が成長していくうちにサイズがきつくなつた少年時代の服を脱ぎ、裸の上に自身の急所となる部分を隠すように布を巻いた状態でいた鍊士は久しぶりに服を着て、ぼさぼさの髪を整える

髪を整ってもらふ際に鍊士は自身の髪型を父親と同じドレッドヘアにして欲しいと言った

本人曰く「家族と生きている感じがする」との事

その後、鍊士は自身の父親の会社『獅子神フーズ』に行くのだった

そう、鍊士の父親は世界で有名なである獅子神フーズの社長だったのだ

獅子神フーズの食品は質がよく世界中の人々でも愛されている

もちろん、社長である鍊士の父親が死んだことで息子である鍊士が継ぐべきなのだが

「え、無理。僕にできる筈が無いよ」

そう言った知識を与える前に長い間無人島暮らししていたため錬士が分かるはずもなかった

話し合いの結果、錬士の父親が信頼していた部下に継がせた

錬士はUGNに保護されて自身の能力のシンドロームの使い方を鮫島隼人教えられた

オーヴァードの力を教えているとき、錬士は鮫島隼人にある事を聞かれた

「なあ、錬士。今までの誕生日プレゼントに何が欲しい?」

「欲しい物? うくん……じゃあ!」

しばらく悩んだ後、錬士は欲しい物を隼人に言った

そして、オーヴァードの力の使い方を覚えた錬士はUGNが用意した家に住むのだつた

錬士がUGNがくれた家に住んで一週間経った

朝早く起きた錬士は朝食を作り、ある所に運んでいく

そこは錬士の家にある大きな庭、そこには様々な動物達がいた

「みんなーおいでー」

錬士の言葉で動物達が集まってきて錬士が作った自分達の餌を食べる

「よく食べるんだよ」

自分が作ったご飯を美味しく食べる動物達に鍊士は嬉しそうな表情をする

「動物が結構多いな」

「あ、隼人」

「よう、久しぶりだな」

「久しぶり！ 今、朝食食べるんだけど隼人の分も作るよ」

「おう、頼むわ」

鍊士は隼人に朝食を作るために台所に向かった

「ごちそうさん。美味かったぜ」

「ありがとう」

朝食を食べ終え、鍊士は自身の皿と隼人の皿を一緒に洗う

「にしても、無人島で暮らしていたときと同じ環境でつて言われたのは驚いたぞ」

隼人は以前、自分が言った鍊士の誕生日プレゼントのことを思い出す

「けっこう大変だったけど、好きだったからね。あの生活が」

皿を洗い終え、濡れた手をタオルで拭いた鍊士は椅子に座る

「自然を歩いて、動物を狩ったあの毎日のおかげで強く生きれたし」

「そっか、にしても店のほうは旨くいってるみたいだな」

隼人は雑誌を広げる

雑誌には鍊士が立ち上げた料理店があった

「まあね。父さんの部下の人達とか食材をくれたりして支えてくれるから助かるよ」

「そうか、近いうちに店に行くわ」

「ありがと。そろそろ学校に行かなきゃ」

鍊士は椅子から立ち上がり制服に着替えて学校に歩いて行った

獅子神鍊士の設定

名前 獅子神鍊士（ししがみれお）

性別 男

容姿 整った顔で幼さが残る顔

髪の色 茶色

瞳の色 茶色

年齢 17

一人称 僕 ただしキレると俺になり口調が荒くなる

服装 動きやすそうなラフな格好を好む

ブリード トライ

シンドローム キュマイラ・モルフエウス・オルクス

覚醒と衝動

覚醒：渴望 理由 餓死しかけたとき生きようとした所で覚醒した

衝動：飢餓 理由 生きるために食べて生きていくため

設定

世界で有名な食品会社『獅子神フーズ』の御曹司でなに不自由な生活をしてきた優しい両親に育てられ、毎日美味しいものを食べ、よく遊んでいた

しかし、彼の人生は家族旅行の時に変わってしまった

飛行機が事故が起きて無人島に墜落したのだ

運よく生き延びた錬士は父親の『生きろ』という言葉を胸に刻み、生きていく

しかし、一人の少年が生き延びるには酷だった

餓死しかけたところでオーヴァードの力が覚醒

だが、錬士本人はオーヴァードの力を知らずに生きてきた

長い間無人島で暮らした錬士は逞しく成長していった

そして、鮫島隼人が錬士を救助しに来たのだ

無人島から帰還した彼に待っていたのは忙しい毎日だった

毎日やってくるマスコミ、獅子神フーズの人達からお祝いの言葉の嵐

特に錬士がきつかったのは勉強だった

流石に7年間遅れた勉強を取り返すのは無人島暮らしでタフになった錬士でも相当

堪えた

その後、鮫島隼人にオーヴァードの力を教わった

元々センスが高いためオーヴァードの力を使いこなすのは早かった

しかし、錬士はその力を使って戦ったりはしなかった

長い間無人島で暮らしていたため経営の知識がなかった錬士は獅子神フーズを継がず、獅子神フーズの支援で店を開いて料理人として生きていくのだった

料理人だった母に料理を教えてもらっていたため錬士は三ツ星シェフ以上の料理の腕をしている

獅子神フーズの支援で食材を揃え、様々な料理を錬士は作り上げる

その料理が好評で錬士の店はいつも行列ができています

キュマイラのシンドロームなためか、いつも錬士のお弁当の量が多くいつも算段重ねの重箱を持って着ているのだ

錬士がお弁当を美味しそうに食べている姿は女子生徒や教師達の母性本能を刺激する

後、人懐っこく人と仲良くなることができる

性格は温厚でめつたに怒る事は無い

だが、錬士の髪型のドレッドヘアと料理、家族を侮辱するとんでもなくキレル
今までの温厚な顔が鬼の形相になり口調も荒くなるのだ

錬士のドレッドヘアは家族との思いを忘れないようにしているため、錬士のドレッドヘアを侮辱するという事は彼の家族を侮辱することと同じ意味である

一回、錬士のドレッドヘアーを侮辱した生徒がいたが、錬士の鬼の形相に萎縮し戦慄した

それ以来、錬士のドレッドヘアーを侮辱するのは暗黙の了解となった

彼に料理を教わりたい生徒がいるが、その指導の厳しさにやめるものは少なくない

だが、錬士の指導を最後まで受けた者は料理の腕が上達し、高級料理店でも働くことができる

錬士は年上のお姉さんに好かれるが、彼はケモナーであるため意味は無かった

本人がケモナーに目覚めた理由はオーヴァードの力を習っているときにキュマイラとサラマンダーのシンドローム持ちの女性オーヴァードの美しさに見惚れたから

なお、その女性オーヴァードは傾国の美女のレネゲイドビーイングだった

彼の戦闘スタイルは無人島での狩りで長い間使っていた槍を使用した接近戦スタイル

長い間無人島暮らしで磨いてきた直感で相手の攻撃を避ける

錬士はあまり戦闘よりも料理を作っているのが好きなタイプなため戦闘に参加することはあまり無いと思うが、もし彼が戦闘に参加する状況になったら無人島で生き延びてきた手段を使うであろう

環境を利用し、そこらにあるものでトラップを作り、自身の直感と槍の腕前で相手を

翻弄するだろう

そうなれば、ベテランのUGN、FHエージェントでも苦戦するだろう

今日も彼は料理を作り店に来るお客様を満足させる

コンボデータ

コンボ1 獅子の猛進（ししのもうしん）

効果 手にした槍で相手を突く技。踏み込みの強い足腰は相手に瞬間移動したかのように見えるであろう

コンボ2 獅子旋迅（ししせんじん）

効果 相手を突き刺した後、横薙ぎに払う。突き刺してからの横薙ぎは相当なダメージを与えるであろう

コンボ3 獅子剛裂破（ししごうれつぱ）

効果 連続で相手を突いた後、切り上げる。空を切って繰り出される突きに相手はなす術も無い

コンボ4 獅子の咆哮（ししのほうこう）

効果 槍を相手に向かって投げる。キュマイラパワーを駆使した投擲に相手は避けることが出来ない

Dロイス

獅子王の魂（ししおうのたましい） ※獅子神錬士専用のDロイス

獅子神錬士専用のDロイスの説明『獅子王の魂』の説明

これは獅子神家に流れている力だ

獅子神家のオーヴァードは錬士の祖父の代から続いており、この力を引き継いだ者は凄まじい力を得る

錬士もこの力を引き継いでいるが、集中が高まったり怒らなければ出せないためまだ未熟である

だが、この力を作った瞬間、身体中の五感が研ぎ澄まされる

おまけに錬士は母親譲りの直感を濃く引き継いでいるため六感も研ぎ澄まされる

このキャラを作ったときの感想と雑談

獅子神錬士を作った理由はですね

新しいキャラを作ろうとして悩んでいたとき、ジョジョの奇妙な冒険 ダイヤモンドは砕けないを思い出して錬士を作ったんです

東方仗助とトニオ・トラサルデーを足して2で割って優しい性格にしたらこのキャラができました

名前の方は、どんな髪型にするか悩んでいるときにドレッドヘアーが頭に浮かんだのでドレッドヘアーにしました

それで、ドレッドヘアーがライオンみたいに見えたので獅子神錬士

獅子Ⅱライオン 錬士Ⅱレオ

となつとおります

このキャラを作ったのはいいですが、一回も使ってないんですよ

皆さんはありますか？ キャラを作ったのはいいけど使ったことはないというの

は？

せつかくなんで、今度友人と遊ぶときに使って見たいと思います！